

## ● 学校施設の耐震診断結果一覧

H27.4現在

学校名	種類	築年	No.	構造 (※1)	階数	棟名	面積	診断結果(※2)					対応
								年度	Is値	Ct・Sd値	q値	耐震性	
蚕桑小	校舎	S52	1	RC	2	管理・特別教室棟	1,555m <sup>3</sup>	H24	0.60	0.61	-	×	補強済
	校舎	S54	2	RC	2	特別支援教室棟	158m <sup>3</sup>	H24	1.41	0.80	-	○	補強不要
	校舎	S52	3	RC	2	普通教室棟	899m <sup>3</sup>	H18	0.89	0.92	-	○	補強不要
	屋体	S53	4	SRC	1	体育館	861m <sup>3</sup>	H18	0.22	-	0.68	×	補強済
東根小	校舎	S57	5	RC	3	昇降口・管理・図書室棟	1,097m <sup>3</sup>	H24	0.77	0.78	-	○	補強不要
	校舎	S57	6	RC	2	東教室棟	331m <sup>3</sup>	H24	1.44	1.04	-	○	補強不要
	校舎	S57	7	RC	3	西教室棟	370m <sup>3</sup>	H24	0.78	0.32	-	○	補強不要
	校舎	S57	8	RC	3	特別教室棟	1,243m <sup>3</sup>	H18	0.98	0.37	-	○	補強不要
	屋体	S55	9	SRC	1	体育館	860m <sup>3</sup>	H18	0.59	-	1.83	×	補強済
白鷹中	校舎	S47	14	RC	3	普通教室棟	2,432m <sup>3</sup>	H18	0.31	0.40	-	×	補強済
	校舎	S47	15	RC	1	管理棟	363m <sup>3</sup>	H22	0.48	0.50	-	×	補強済
	校舎	S47	16	RC	2	特別教室棟	1,757m <sup>3</sup>	H22	0.52	0.68	-	×	補強済
	校舎	S47	18	RC	2	渡り廊下棟	144m <sup>3</sup>	H24	1.22	0.43	-	○	補強不要
	屋体	S49	21	SRC	2	体育館	1,378m <sup>3</sup>	H18	0.13	-	0.40	×	補強済

※1 構造において、RC＝鉄筋コンクリート造、S＝鉄骨造を表します。

※2 診断結果は診断当時(補強前)の数値です。

### ◆ 白鷹町の小中学校における耐震補強工事は、すべて完了しました。

- ◆ 地震防災対策特別措置法及び文部科学省告示第102号の規定により、下記の両方にあてはまる建物の耐震診断を実施することになっています。

<耐震診断を実施する建物>

- ①旧耐震基準(S56.5.31までの建築確認申請で使用された建築基準法の旧基準)で建てられたもの
- ②200m<sup>2</sup>以上または2階建以上の建物

- ◆ 荒砥小学校、鮎貝小学校、鷹山小学校については、新耐震基準の建物のため、耐震補強の必要はありません。

### ◆ 数値の見方

国交省基準では、  
Is ≥ 0.6

(1) Is値(構造耐震指標) ☆文部科学省基準: Is値 ≥ 0.7【地震により倒壊する危険性が低い】

- ・地震力に対する建物の①強度、②靱性(変形能力、粘り強さ)を掛け合わせた数値です。
- ・この数値が大きいほど耐震性能が大きくなります。

(2) Ct・Sd値(q値)保有水平耐力指標 ☆文部科学省基準: Ct・Sd値 ≥ 0.3 q値 ≥ 1.0

- ・Is値が高くて、粘りが強いだけでは横揺れにより倒壊の危険があるため、建物の形状やバランス累積強度を考慮し、建物の強度そのものをあらわす数値です。鉄筋コンクリート造建物ではCt・Sd値、鉄骨造建物ではq値が使われます。

- ◆ 上記診断結果は、地震防災対策特別措置法第6条の2第2項の規定に基づき公表しております。